# 夷酔稿

中村俊定文庫
文庫 18
559
2

宮城県図書館

梅の月おもふ花をさはりなる
みのむしもこゝろかすなる梅ぞ男
さゝやきものゝかはけぬく貞矢代
うめさまをそ喜をまく本信代
梅うまをこのゝ板長水長味
なけ爽の色うめ数里の水きゝ爽

乗丸
玉珊
麦信
白雄
玉ゝ
仙鳥

中村俊定文庫

[illegible]　巨詩

人口かゝ[illegible]の駒よ梅さく郷　武蔵　四皐

かゝるあらハ堤よ風生の梅の日輝　相中国辺　志計

[illegible]　白沢　里水

白雪[illegible]梅花咲よ井堤　雅扇

籟よ[illegible]

[illegible]　柳しゝみ糸蘭　橋志

[illegible]その幸[illegible]秋の雨[illegible]　相中[illegible]来

家々[illegible]　仙堂　[illegible]翠

友恵一今[illegible]の[illegible]　いせ松坂　[illegible]色

[illegible]　上毛上白井　犀光

人日

川[illegible]　第　西和

家々[illegible]こゝ[illegible]　上毛上小牛　[illegible]

[illegible]　嘯和

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　第　車来

青柳ハ船にも契ゆふかきしのな　玄々

幟降きの手よ結ふるなき乙木那　行松代　松塗

庭中の柳に移る年様可東　房邦　伏兔

風なきら降きて柳見る日かな　東西

水かけて水にも志川にも栴檀　武八王子　星宵

春の宿も帰的角きのみそろなふ　いま松坂　雲舩

青柳也ゆふ風ふふ天藤　白虎　上総ヤカタ　玉香

青柳に風さはしく何か野ら西のな　上総眞田　春郊

青柳や吹にまかせて春の日のなき　上総坂田　秋松

捨舟の行かたしらぬ柳かな　相中厚木　梅明

川岸や見えつかくれつ春かなよ
　鶴なかなく　仙臺　隣昌

蓮も塚に行風もむかし柳かな　巨尉

青柳千尋果ハなかふく霰ふ年　鶴哉

入川や柳かくらの裾の野代　上毛若社　梅史

雲行や夕山かけのひつかすみ　幽牧　芦川

遠近の山を霞のへたてしのな　相中古川　明鐵

山鶴をもうなかりむ日ぐらし代　菊叟

風をそ寒しの時雨の音の中の声　柏蔭
鶯の也面白く寒しきの人を驚　玉垂
雪かくす庵風松年

こゝろの声　岳川
春風の射的かゝる霞さゝぬ　伯先
巡礼の鳴りそふ雪の白しし心　上毛之産　就弁

春の風鶯を誘ふ
春の風鶯ハ見鏡ハ一とせや　瓜仲
そふ風の鶯の鞭ふゝ鏡鞭　上信坂田　竹岑

下之

春の雨山を庵の窓汁椀ふ　加
雨のかゝ見きくとのこ椀去先き男　会坂　松栄
庵の雨の又椀き去の雨の椀　信濃井　時鳴
去月かゝ也去ふ後雨去ハ山かゝ　小倉七川　東夢
雨くゝ也ゆふ椀ふ窓よ

そふ庵去也　忘水
雪解也数庵中椀ふつゝ鏡水　重宇
去庵月墨庵椀くふ庵椀ふ人　筑前く
磐ゆハ去月寒きおもふつゝ　南部　ふゝ

[illegible]　上総若谷　男兵

[illegible]　佐渡　鵜羽

晨明の[illegible]　上田　玉馬

[illegible]　[illegible]　峰鳥

月[illegible]より[illegible]ハ[illegible]の[illegible]　徳川　[illegible]

[illegible]　登戸　六竹

[illegible]　[illegible]　成義

下四

[illegible]　京　蝶夢

[illegible]　[illegible]　蓬戸

[illegible]　武州　百尺

[illegible]　[illegible]　至園

[illegible]　[illegible]　鳥毛

秋を[illegible]　[illegible]　靈陵

[illegible]　[illegible]　友志

[illegible]　上総東金　五柳

[illegible]　[illegible]　桃雨

たる宿の秋也亭主も留守猫恋ふ　古慊

くるふ猫の手とてもかく乳猫の恋　東都佐倉　醉石

花ちりのちや明ぬるみ紀涅槃忌日　蒼雨

階を老の竹ゆるや弥えん秋日　いせ松坂　紫雪

柳老也鏑をとゆ水ゆく　柳泉

陽炎も当汁の小只角ゆらし　上毛松栗　秋光

かけらくも陶保く家根小舞この跡　春鶴

柳老の跡ひくたや敷の月かけ　倉鳥

稚子の柳老を追ゐもも〻この跡　島奴

くもふの草

くもふの草古院の法化も猪もゐ程　仙臺　井く

川ちかく川中に居さら男老友草　露甲

草の色も帯信の道も老色人為男　佐羽陽　真笙

岩須ゆゐ見ちとききそちみ菫草　追子　梳亭

髭莫子の袖子しかる之遊〻　武井上　梳虎

こゝ汲車の扇ふしさうして菫　佐華古　鳥巓

[illegible]　赤土坂のうす紫みを　京鶴
[illegible]すらかよ去のうみ悪候　雲水
[illegible]　[illegible]　和泉
[illegible]の　[illegible]かよ作　ほくしゅの邪　冬扇
[illegible]畑の枝葉の[illegible]　[illegible]邪　[illegible]
道邪也[illegible]　[illegible]自[illegible]　文々
[illegible]邪[illegible]の[illegible]の出ふし　玄蒙
[illegible]の[illegible]ふる[illegible]　高川

[illegible]　慶山
[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　義中
[illegible]邪也[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]の角　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　通[illegible]　麦倍
[illegible]つほ[illegible]　[illegible]　[illegible]

常世蝶の別くの蘆花こ　藤沼

蝶、姫也那那ふ姫蝶の示あくく　乗水

いかとなくくみと蝶のあらやとう男　相中智木　雨桜

蝶あるゆかまとて鳥とすりの那　信中村　桑衣

まとまかまよ姫蝶あ川角ふ桜代　遊中因覚寺まて　櫻傘

美屋て常燭よ鶴の白ふの那　大樗

常鶴と露と毛那くの男ちまくの那　赤袍

かさ美也里八替姫の桜ふ姫　百姫

門の春番の田蝶のくこくの那　上毛上白井　吉俊

拾霧よ橋の追て坂ふ東那　吉生

ふ橋あよ橋あ雨の山家代　蕙羽

風のゆ山垂橋の菓美て

知あ赤男　芦菓

夕新の屋ふよ河かき橋くの那　上毛原川　茱古

おあふ也橋ふとふ美ふの美桜　篝雨

夜河の也自氏ふくのふの美屋美　紙祇大谷　函能

橋美て雨を浜あふ

なふしかの那　甲州美尾　鳩井

おもふこゝろ人しらぬ秋ぞ春ぞ　西石

雨のしたくさの心をとくしらん　紫若

雨のうちを志ゐこそ春の南西帰る　南湾り家　葉園

鳥の巣やるのこゑ鶯のなかたし　高鶴

巣をうつる人を卵よ翔のうつるとく　作之倉　雲古

仏やせん花を鳥の巣をうつる春帰る　茅中

巣やほくろ鳥の鶯の　水魚

春雨あらう塔を巣のうつる秋ぞ　西和

華やかなる鶯の盛の秋ぞ　鶯之

華の中を鶯のうつる男紀久和　桃虎

雲霧華を藤のこゝ地ぞ日数　茅舎

突き月世を野を　佐板代

鳥雲よ大内の邪きこゝ紀ゐ　立煙

うつる人をこゝと志月　鶯の所陽

雲よ鳥人子曙の名川　鶯の角　鳥色

ものとう雲よ鳥こゝ志鶯かな　第二

太吹てきてきて降る雨山の郭　　永之

郭風也むこのふうこしてきてきて降　　帯川

雑の郭てあるしかよりゆる風吹　上総中宮　　千鶴

芭蕉の郭の雑の番山代　　攻田　　文雄

松葉の月てみてうる色　　上毛辰田　　五湖

雑郭きてきて

雑郭よ月晨者つかてのあせてう　上毛蓮稽　　玉花

山郭風也ゆ蕉塔のかつてこ郭　　玉廣　　菊園

時二白八とくゆのへあるを

月半史らかきをしてうき

追加

雑郭てきてゆ郭仲よてきてきて　　百安

此の郭の郭の雑てて舞楽郭代　　玉舞宮川　　東鳥

二三郭柿くまて郭ゆるの郭ゆしき　　上毛下仁田　　金英

雨岳

花鳥よ月を笑ふ冥山春霧深沙　弟　固克

あの峰やたの郷よりあの川辺の里　梧老

ゆかしさも世ゆ春りをやこく　水春落　文綜

新六世故郷をなつかしの浮　歩成

秋雁の鏡ゆふくれを重ね　上毛京町　玉丈

長閑なき水くまるるを　磯井県　柳市

おとこせの古人を　かつ歩

日ふかく雲ふかくの言ふまもかくの里　世葉禅河

降雪くるまるまとも雪の花　雨岳稲

作ったれし家郷ふとも嘘
家郷ふとも嘘

月也秋　松の下風　後藤　久子　紳月

九月二十九日の吟ようて十月二百
三月ふなきかくハ平浦海暴禅寺よ
ふなむ葉中とむ一法也用一句
翌仙切ってこころる春を
信一む

何とても隠者とふべき歟　一條

[illegible]　　為知

[illegible]　　有棚

[illegible]　　為国

諸大夫禅尼　信上田城足

門よりいまだ離れぬ事なれども

[illegible]

何とか墓よりかへるべきとこのかたへ

何とか墓よりかへるべきと悔せよとなり

[illegible]

かなたこなたに[illegible]

[illegible]

[illegible]

愛ふかくしたしむ人の[illegible]

反側して天を呼[illegible]

隠士[illegible]

猶子[illegible]

何事か服よりまさるべきや　白雄

忌明の日

[illegible]

[illegible]

秋日の景色とりどりなれハ鹿狩の興のつきぬ
ほど人数とり巻き一低の判者あるべき
事をうけ給ハり銘も銘も生貫之為
こゝろ詞ハ紫式部ハ清少納言の
優劣をうたがひて　為菊の

あるべきよりハ秋長外　白雄

かきりなく行く野を事長　三日月　古燥

狩くゝ野小糸の風よ吹くしくて　喜鳴

さ月雨を笠長道を那かるて　吳水

雲もなく天氣那迄　紫若
松のこゑ　を待よほしとう　斜月
淋やうらもなくせし家賓子　巨計
ほの麗るて　板屋にのぼや　大来
きしかるを　林籠寺かを　式居
石動こゑ　ふ馬屋　奏くく　千鳥
つまを　ハ松よ　而て　毛又意し　洗く
金むたかう　屋　佛　多　ともむ　豪従
小鼻紙よ　家　を　絶て　秋の月　昆明

蓋ふをかう　歸　ぶ　菊屋　奏　河連
引　屋　宮　ふかる　の　し　あき　古燥
伊勢　時　屋　を　金　鈍日　春　山　紅　ふ雄
花　ふ　の　欲　を　し　ふ　時　風　あ　ち　て　呉水
茄　ふ　苗　ふ　せ　し　蓋　の　い　ろ　口　毒鶏
伊　ふ　ま　む　せ　た　言　を　寄　麗　の　島　斜月
て　ふ　日　の　か　ま　み　芝　た　月　か　け　紫若
隠　ふ　ま　ま　ま　ま　も　と　の　お　も　た　大来
佐　作　ハ　ふ　て　ま　意　し　ま　ま　ふ　ふ　の　巨計

[illegible] 千鳥
[illegible] 氏房
[illegible] 永俊
[illegible] 昆明
[illegible] 河連
[illegible] 詠て
[illegible] 白旋
[illegible] 吉嶺
[illegible] 吉鳴

夢[illegible] 哭 [illegible] 見水
[illegible] 屈 [illegible]
[illegible] 鈴月
[illegible] 巨汁
[illegible] 孰字

老人のたしなきを遠いよく座
にうつしたまて物し給ふの了
賀莚を設く

秋風也花ふかの底紫苑 吉嶺

袁漢史 袁を賀し 短篇

身の興合思四徒輝 笑して 鳥奴

生よ無ふ如し 馬のさ那ふ 倉鳥

繁陽もの咲きあふ山の入 云し

徴和の時露の花ふ角きふ 袁和

時鳥おとふ松樹さふ世巷也 東嶺

限相空ふ何ふ 屋何

永稼繁次よ久ふ 屋何

ちみ一翼を肩ふかけ 丈馬

ふもふを志の輝 茶蘼

繁松むふ輝 秋ふ記しき 吉嶺

稿塚也那ふ記て傾く石ふけ 倉鳥

那の何をのとふ 鳥奴

とゝ〻ゝ長屋水屋さく易さめて　麦面
千鶴ゝ門音の色よ春てゝ　丈馬
御ゝよつてうさかを巻ゝ　屋何
蝶鳥ゝ丸ゝ屋ゝ新屋月花を　京嶋
鶴毋むかゝ蝶の枕子を抱て　云ゝ
和のゝ乱を寺長茶屋き　可明
海の雲り帆よ恵ハ和ゝ　吉像
拾ゝひ鳥ゝ　嘉ゝ来ゝ　篇面
岩かゝゝ馬の屋無志の法ゝ　島数

急の晡門巻しゝ人ゝ　徐爲
入ゝゝの温泉の色ゝ篇戸よ　云ゝ
宇佐の宮人月よせゝしゝく　可明
うほゝゝの秋をうほゝよ春ゝて　京像
面を秋京よかくしゝかゝ屋　屋何
ゝ蘆川や雲のかゝよ面ゝ屋　丈馬
急の秋遠くゝ国馬法ゝゝ　麦面
毋ゝゝゝ京屋賞俳面ゝ　篇面
車のゝゝを道よ那ゝ急て　吉像

[illegible]　麦丸

[illegible]　鳥奴

[illegible]　倉鳥

[illegible]　孰年

## 虎杖菴八下　四時晨雜

[illegible]　鳥奴

[illegible]　簾丸

[illegible]　言し

[illegible]　　陰鳥

[illegible]足の[illegible]

[illegible]　　麦雨

[illegible]の[illegible]

[illegible]　　可明

[illegible]

[illegible]　　京嫁

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　屋河

[illegible]

[illegible]　　丈馬

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　和夕

[illegible]

[illegible]　　雲古

[illegible]

[illegible]　　下同

[illegible]の[illegible]に[illegible]の月　秋　素柳

[illegible]　秋　仙島

[illegible]　秋　雪地

[illegible]　字乎

[illegible]　桐二

[illegible]　四皐

[illegible]　素月

[illegible]　東戸

[illegible]　東石

[illegible]　伊越

[illegible]　素風

[illegible]松かしハ

辻堂に日八のこゑかり鷄尾ち那　風日

あ鳥の乗合に名あるに扶の事　三雨

若き船の川秋に名川けふの川　鵬洲

しらぬ也木綿のきるもの着まて

枝櫃のゑに木ふむまみ農の部　金馬

雁の月也駒の簪氣に青皮婦に

日のくれ村ゆゑ遠きしく鷄代　竹稲

宵の秋戸いとも何して峰ちり　玉路

くつ也旭に出まて峰乙鳥　呂秋

陽炎や垣の小菫に名もなの有様　一竹

旅路しばし晩も川さ兌川表の前　柳枝

繚中き年表見を稀ふ翁有角　鳥人

雅子山峰ゆ水たるくも岩えしらず　友胡

般日ふらて木の箱を垂り川畿代　松菓

吉川なる也くまも雲立の峰の有様　未白

志と笑鷄てもかなり何ふなる杉の皮　斗舟

縁弓やもは吉川なる表日たち　西戸

秋の能也枝折戸にて待つの者也　雨足

すゞしさに裏吹かへす柳かな　斗明
草くの花むらかり也そよぐ風
咲おくや闇の所也右に廻る草　楳尼
山中也田こしに入る秋しく水
すゞ風也松の葉八朔さくら　吉菱
夕風にまつのうら吹しくれかな　子石
秋中の草のもと白ふく尾花かな　鶴島
おくまで月のさしけり相の山かな　女
松也風にて舞ふ風の中に　如柳



むら雨也けふも吹の運ぶ雲と哉　女　楚明
野の秋の木枝みなぎり渡りし
在秋衣人草を帯留の夜
もくみのなせまた咲かし物きものらふく
撫子よ露をくばしなぶ露くみ代　歌妹　諸く
風に油く焚ゑをわけしまくみの哉　斗明妹　むら
こしかけを見かをしめる涼の章　七月廿　こ那
影に日毎柳に本との涼しさよ　星向廿　以く
橋隣り香わりなのしむ夕暮くみ　桐二廿　諸く
秋か影也まね吹るくに梅の末　法七五月倉　花夕

水無月を去る廿人日ゝよせみ居吟　中村　無弥麁

同友達と共に嵯峨を尋ねて

心しらふるまの山の時雨ゆゑ　詩一

夏ゝ自然伊予の磯のきりぎし

秋の夕ぬしかりの留る　桑衣

夢ゝ覚て笑みあまもふ山白し

月かげ入ふの一ゝあゆの色　群芳

蕨ゝ出て志ゝあるふゝ人の跡　架亭

松窓し蕨の下葉のくゝみ　葉亭

物陰の風よくも近ゝ寄むかの気配　若告

みしかれや見のこゝ易ゝ分かゝ山　仕候

除夜のかまゝ〜のり売

雪きの邪　卜胤

水鶏や岸辺よりふく秋風　永井　侯耳

月こゝろぶこゝろひゝて秋八月　

青ゝ月ゝ松の梢ゝの邪　牧鳴　蓼的

傘ゝて風のゝかゝゝ雨の月　桜井　一雄

うくゝ出ゝ乗中ゝくゝ人健の毛　ふゝ

月毛日景殿と那王曳の宮　福井　可了

奥をまちてうぶ那りの板敷　鶴白

為秋ゆたしいくちちの つきも　水　蓑翁

梅うぐいせ立の玉矢屋　宵の月　蓑三

ゆふくもの景ちりぬつの雲ふの那　仙諾

梅うぐいるもをかの形の茶筅の亀　永山

あらちて目ハつけうく　松　小松　昌尾　佳夕

下りや本の雲よ去のふ立の　麻　儿鶴

もの〳〵よりけてハ春ちくふ　鳥布

つるあきて、おもたんつのうぶんが雲代　蓑右　鳥蓑

麻をれ〳〵那をれ那ふ板第代　坂木　掬仁

つの女稼山家の十月風をかしにより　徳万　鶴若

海留て山那ほ百為ち出蓑かが那

那を百屋雲て那ちあふ

日つの〳〵か亀　中條　第十

青那きを出ち百〳〵あふを板代

くくふちの華ち澤て八るかりの　矢代歌　松釜

那月也留秦の雲ふ風つふ　鳥鉢

みつ国に下り人国の句

隙の春雁ハ下かなもゆ見遊ふの那　上田　麦二

松風也夏座のかなら紙也　長き也　石

かき毛ものを梨の吉ニ席く寒ら　如毛

り春の花の寒に　よ寒春ん　雲帯

撞也寒ら花ら寒春ふ和のもみ　菜園

山吹よ鶯の云程花のかお　ふ那　二机

き苔の花ハ　よ弟き長り春ら　松本　雲居

暗る水花ハ寒花の那きかき手　善光寺　猫九

風長を那の寒ん寒ふ信水ハ　路人

ふくし也紅葉よかハ原の長雲　午礼　文夕

よのかの寒那桜の男和よかかの　日吉山　冬翠

傘の猫花ふせし　梅の梅白鶯　眉丈

涼しき也寒よふふ和ふ篠ハ寒ふ　上穂　伯先

新春みは月ようひくハさふふ　橋井　和柳

水ふ月を塩をしふ寒ふ日かの那　伊勢町　祇国

保寒ふの翠の簾よ葵の加寒寒ハ　能井戸　仙鳥

苔株や角くむ芝よ水とも哉　雄氷筵　啓鳥

寝ぬ氷つみ口ふる夜長れば　松代　此隆

ひつ中ゆ氷くらをよさる人の川　麦浩

さくら川くまひしてひかりものかりのこのもとかる

秋くるを兼て秋長くも　越ま田　耳井

鶴の声おしくも思ふりのとの山　尾陽　鶴臺

鈴鹿のかくまつるまん象の鈴　加賀　仙

ほ屋の秋もかりとせとかりの川　一角

梅ゝ咲や年の内のはしハ夜の雨の　京　重厚

山くも也のこるかくふくのこ原かき　蝶多

ほくくゝ非のよこ山やこ初一くも　いせ　兄寿

ふるこ多也ふか俳多雨ふの紙火　武州　仙蛙

おとひ見ハ氷稲一ゆ分那　上毛　高騒

むしーすよ虫も鳴きさ(ま)の紙書代　大坂　不打

つくこ雁　秋ふ一ふ元むふ一那ふ　相中　乙州

秋月也色一ゆ火かもこ射ふ袖　武後　文仙

名月や海ふ何ふ越きの魚船岩人　蓮華

鈴鹿ふ悔　雁の麻こきこ元那ふ　雁志

くもの上に雲を厂音氏雁　忘菴

蒹葭をかきわけてとしてみさきうつ　慶山

石ばしる滝やおもてもなの柳ちる　咽鯨

つゆしきや秋墓道よりそこの浮　星布

石月や秋ふもかけんとかなく　百雄

あけがしやみ屋の壁紙ゆかしき　相半　玉河

まつ秋やうとくて秋風吹　きく扇

以外ほうかまし世蕨のかぶり　梅樹

木のまより月て林の小鳥ふる　陝中　雲水

折ふしを見ぬ人ふる鏡よりて　下総　眉尺

岸かぬる藤てさきぬしの舞　嘉川

蓮の実ぬ秋て嘯風寒し　南窓　珊瑚

風ふえて花の手ちむ少色に　蘇芳

水石よ明鏡かさ一也鏡形く　麗陵

伊原聖芒の秋ふ形ふしに　未魚

暮の内きをもきしの墨ぬん　きく蒙

せんてもの黒髪何ぬ変秋　仙雪　弟南

ぬこ形き人ふ黒く去変の女　上毛　和栄

雲和
大灣
柳志
遠州
會波
柳葉
山號
平墨
白計



大来
氏居
家伝
小燈
古原
蟹岩
長水
古餘

# 虎杖菴記

信濃戸倉の驛より南に向て虎杖と云驛八十せうとう
ばかりの所より西に向て一里一千里杖を拾て
東那と鈴瓜の山きりくの行き事を何人か古墟なる
いかなる時ありて經年の煩惑の道者屋も
幸に今仲の名をとゝめかせしらまほしかりをも
道よりも一無適の心を起して逝紙の本の所を尋ね
幽の七條乃僧侶あるの人を尋ねて水くみしに

神風の伊勢の一參菴より筆とりて八年をかさね
とゝまりの所を辞して西とせかの国県八郡をたらかち
赤雲原を過ぎて帳屋と男衣の衣食形成
空の夜もすがら落葉をあのもきとゝろゆしこ漠
して形成之熊野浦のくかしきは須磨の
葉しつ火小を寒かるしも以下知かしせうこの
言葉なる之世しも晨明山の嶺さき男子曲河辰
雛をたゝあり那をゆくらふも全しくよて所とし
印月のしるゆくを杖ゆき那してあるを菴

かなるあるしゆゑ老あるを、あるを樂後よりさハ
こゝ千丈の悲嶺きゆゑ那ふ〳〵おとは公羅好の枝を
一雖又〳〵爛燭を流し〳〵過くるを小鈴の音
みのおくるこゝ仲をなるふ虎枝菴とよふのたゝ〳〵
那ふ事を忘れ玉ふ秋菴のたゝ〳〵ふ雅吟

仁壽山房蔵版
京二條ちゝ町七丁目
橘屋治兵衛
彫工 小林九郎